



子育て通信 かなりや

発行 第369号 2026. 8. 1.

時津町子育て支援センター『こばとの家』

長崎県西彼杵郡時津町西時津郷 1000-10

支援センター TEL095-882-7455

こども園 TEL095-882-4559

FAX095-882-4901

ホームページ

<https://www.togitsukobato.jp>

～みんなの笑顔が
これからも続きますように～



『祈り』

こばとこども園
園長 嘉村 望

何が见えます 顔の向こうに
どうかその場所があたたかいように
聴こえていますか ここからの声は
どうか孤独にも響いているように
頬を伝う涙は旅立つあなたの
甘く辛い味がする
とうとうと流れるこの水の中
私たち寄り添い夢を見られた
濁流に吞まれて今 はぐれても
いつか海で逢わせてください
花が咲きました 見慣れた岸边に
眩しすぎるからわたしは目を閉じる
ひとときだけでも話がしたい
変わらないねと笑って見届けて

めぐるめぐる季節に何を見つけたら
あなたに逢いに行けるでしょう
さらさらと過ぎて行くこの時の中
わたしたちだけ立ち止まることはできない
濁流にもがいて今 泳ぐから
いつか海で両手を広げて
とうとうと流れるこの水の中
わたしたち寄り添い夢を見られた
さよならは告げずに今 泳ぐから
いつか海で逢わせてください
夢のつづき見させてください

アルバム : Corridor 歌: 今井美樹
作詞・作曲: 川江美奈子

2000年7月9日に母が逝去し、2023年7月26日に敬愛する新沢誠治先生が逝去され、2025年7月11日、21年間、私を支えてくれ、信頼し、唯一身をゆだねることができた一番の親友が天に召されました。7月は、故人との大切な思い出に浸って、静かに心を巡らす日々を過ごしていました。

1945年8月9日11時2分 原爆搭載機ボックス・カー号は、高度9,600メートルの上空から、第2号のプルトニウム爆弾を長崎に投下しました。ポルトガル船の来航により、歴史の幕を開け、江戸時代の鎖国下、オランダ、イギリス、中国を通じて海外に開かれた唯一の窓口となった異国情緒のある長崎の街や風景、市民の生活は、一瞬にして破壊されました。両親とも無事でしたが、原爆投下後、救護や親族を探す為、被爆地に入り、放射線による被害を受けた入市被爆者でした。私は被爆2世ということになります。被爆2世であることは他県では差別が残るのだと自覚しました。

現在、ウクライナ、ガザ・パレスチナ、スーダン、ミャンマー、サハラ地域、イエメンと数十か国以上の国々で武力紛争が発生しているとされています。その紛争に巻きこまれ犠牲になるのは、一般市民、弱者や子どもです。

大切な人を亡くした悲しみ(グリーフ)は深い喪失感、怒り、罪悪感を引き起こします。心と体の休息を最優先にし、少しずつ自分のペースで気持ちに向き合うことが大切です。残念ながら死別の悲しみや痛みを消してくれる特効薬はどこにもないのです。わかりあえる人との関わり、支えあいながら雪解けのように心の傷が癒えることができるでしょう。たくさんの方々のご冥福をお祈り申し上げます。

8月子育てワンポイント

『子どものほめ方叱り方』



子どものほめ方叱り方は、年齢や発達段階に応じて、関わり方を変えることが大切です。

0歳児は、安心できる関わりの中で笑顔や優しい声かけを通して「うれしいね」「できたね」と気持ちを伝えてあげたり、危険な行動は大きな声で叱るのではなく、安全な場所へ移動させながら落ちついて繰り返し伝えてあげましょう。

1歳児は、自分でやりたい気持ちが育つ時期であるため、小さな成功も具体的にほめて自信につなげてあげましょう。

「スプーンを持てたね」など行動を認めることが大切です。

叱る際は短い言葉で理由を伝え、その場でわかりやすく伝えることが大切です。

2歳児は自己主張が強くなる時期です。「順番を待てたね」「貸してと言えたね」と努力や思いやりを認めましょう。

叱る時は頭ごなしに否定せず「叩くと痛いよ」と相手の気持ちや望ましい行動を、伝えていきます。

3歳児は友だちとの関わりが増えるため、協力できたことや、最後まで頑張った過程をほめることが、意欲につながります。

叱る際は感情的にならず、なぜいけないのかを一緒に考え、約束を確認します。

4歳児は善悪の理解が深まり始めるため自分で考えて行動できたことを、認めてあげましょう。

叱る時は、子どもの話も聞き、気持ちを受け止めた上で、適切な行動を一緒に考えることが大切です。

5～6歳児は自立心や責任感が育つ時期です。努力や友だちへの思いやり、役割を果たしたことを認めることで、自己肯定感が高まります。

叱る際には、一方的に責めるのではなく、行動を振り返り、次にどうすればよいか一緒に考えられるよう援助しましょう。

子どもをほめる時は結果だけでなく、努力や過程を認め、具体的な言葉で伝えることが大切です。叱る時は感情的に否定するのではなく、理由をわかりやすく伝え望ましい行動に導くことが重要です。

発達段階に応じた関わりを心がけ、安心できる環境の中で繰り返し伝えることで子どもの自己肯定感や社会性思いやりの心が育まれ健やかな成長につながります。



親子クッキング

7月の親子クッキングでは、こばとこども園のおやつで大人気の「インドサモサ」とすまし汁を作りました。インドサモサは、マッシュしたじゃがいもに、ひき肉とみじん切りの野菜（にんじん・玉ねぎ・ピーマン等）を炒めてカレー粉やケチャップで味付けしたものを混ぜて、餃子の皮に包み、油で揚げたものです。

初めて参加した子も、最初はちょっぴり緊張していましたが、お母さんとクッキングを楽しみ、最後は笑顔で美味しそうに食べていました。

すまし汁にいれるお麴をちぎったよ



餃子の皮の上に、具をのせるよ～



美味しくできたね

水遊び

夏本番の暑さになってきましたね。こばとの家では毎年恒例の水遊びをしました。はじめは恐る恐る水に入っていた子も、水に触れながら心と体が解放され、リラックスして遊ぶことができました。

水が気持ちいいね



水あそび楽しかったね♪